

国語

第1問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

産業転換の遅れもそうだが、日本が経済の興隆期に得ることができたにもかかわらず、見過ごしてしまったものがある。それはアジア全体を視野に入れた未来ヴィジョンと、自国の美意識あるいは文化状況のアップデートである。

明治期の、シルクハットをかぶり、口ひげを西洋紳士風に伸ばし、洋館でダンスパーティを夜な夜な催すようなパフォーマンスは、時代を画する文明の力の様相をわかりやすく表現する演出として必要だったかもしれないし、それなりに効果もあげたのだろう。明治天皇の洋装姿を写真や絵画で目にするにつけ、明治という時代の困難さと激しさを想像する。しかし、西洋への傾倒は、ひと時を凌ぐものでよかった。西洋文明が先に産業技術で革新をもたらしたなら、日本はそのテクノロジーを学べばよかったのであるが、丁寧、様式やライフスタイルまで、ア。谷崎潤一郎が『いんえいらいさん陰翳礼讃』で言うように、明治維新はガスによる照明技術を学べばよかったのであるが、“ガス灯のかたち”まで取り入れてしまった。その結果、日本の文化は、生活の中に守られてきた独自の美意識を失ってしまうことになる。谷崎の『陰翳礼讃』に書かれていたものは、日本の隠微・繊細な感受性への礼讃だけではない。むしろその向こうに、文明開化で忘れ去られてしまった祖国の伝統美への思いが切々と綴られているのである。

もちろん、文化とは、消費財のように使い尽くされてなくなるものではない。文化を受け継ぐ人々の感性の根元に、種火のように灯り続けているものであり、その気になりさえすれば再現できる力を持つ遺伝子のようなものだと僕は思う。建築も、庭も、絵画・意匠も、工芸も、生活美学も、明治の頃にその勢いを失速させたかに見える日本文化は、蔵の奥にしまいこまれた先祖の遺産のようなもので、丁寧に取り出して埃を払い、ほこり新たな世界文脈の中で、光を当て直してみる時期がきていると思うのだがどうだろうか。アジアを含む、世界の文化の多様性に貢献し、豊かに輝かせる資源を自国文化の足元に見出し、未来資源として活用する時が到来している。そんな風に思うのである。

少し明治の話をしすぎたが、太平洋戦争の敗戦も、日本にとって筆舌に尽くしがたい衝撃であった。戦時中の教育は国民に思考の余地を与えず、国を挙げて人々の意識を戦争に向かわせようとするものであった。

人々の教養や思考力を高め、一人一人の判断力を向上させていくという前提が、民主主義には必要である。そういう考えから洗脳教育に違和感や抵抗を覚える人々は少なからずいたけれども、軍事力が政治をドライブさせる異常な環境下では、思考の合理性すら機能しなかった。

一方で、敗戦によってもたらされたアメリカ流、つまり自由と個人主義を謳歌する風潮は、戦時下教育に対する鮮烈なカウンターパンチとして戦後の日本人の心や感受性に響いたのである。日本人は自分たちの国を打ち負かしたアメリカという国に していった。特に若者は、音楽、ファッション、ライフスタイル、そして人生観や価値観までアメリカから大きな影響を受けた。物心ついた時にすでに流行していたアメリカン・カルチャーを養分として育った日本人の目には、伝統文化や風習といった、古来守られてきたものは疎ましく感じられたのである。消費文化や流行も、世間の「進取」志向に油を注ぎ、人々は「新しさ」とともにあることを求め、「古さ」はネガティブにとらえられた。戦前・戦中の軍国主義的な価値観と一緒に、歴史を重ねてきたかつての日本もお払い箱にされそうな勢いであった。

一方、欧州への憧れと傾倒も、アメリカ崇拜と並行して醸成されていく。大きな挫折を経て復興へと舵を切った日本であるから、近代主義に先に到達した欧州の合理性をもとにした、都市、環境、経済、工業、教育、といったものへのアプローチに敬意を覚え、これを真摯に学ぼうとした。アメリカン・カルチャーは、誤解を恐れずに言えば、好景気に沸き返る な匂いが強かったのに対し、欧州は伝統と近代的理性の融合が醸し出す勤勉かつオーセンティック*な魅力に溢れていた。

敗戦国ながら、第二次大戦以前に美術と建築の教育に足跡を残し、現代美術に大きな影響を与えたバウハウスなど、⁽¹⁾ 合理的な合理主義の成果を着々と生み出してきたドイツ、王の統治によって生み出された歴史資産を市民革命によって国の資源として活用・謳歌し、芸術の国として世界からの憧れを集めるフランス、ミケ

ランジェロに代表される奔放な造形性を持ち、明るく前向きにプロダクツの生産に邁進するイタリア、大学教育に優れた伝統とノウハウを持ち、金融や経済の世界に次々と優れた人材を送り出し続けている英国など、欧州諸国から学ぶべきポイントが、霧が晴れたように次々に現れて、日本はふたたび旺盛な意欲でこれらの国々から学んでいくのである。

アメリカ文化がもたらした自由と享楽、そして挑戦する姿勢は日本人に活気を与え、欧州から学んだモダニズムの知的成果は、日本の産業を大きく成長させる土台となったのである。

しかしながら、自分たちが敗れた相手は、先進的な欧米の文明であると思込み、それらに疑いのない憧れを持ってしまったことによる、アジア諸国への軽視が、一方では生まれてしまっていたのかもしれない。もしも視点を変えて、イ，そこから、ひと味違った未来や産業の可能性が見出せるかもしれないと思うのだがどうだろうか。

日本で育まれた文化は、決してモダニズムのみがもたらしたものではない。大陸や半島から多くを学び、渡来物に純粹におののき、それを長い時間をかけて咀嚼しながら日本列島にある文化は醸成されてきたのである。

紙や文字は大陸からもたらされた。法や兵法や倫理や哲学、茶や文学、書画の美学を、古代から長きにわたって中国から学び、また教えられてきた。朝鮮半島の芸術文化に、古来日本人は多く感化され、李氏朝鮮時代の陶磁器などは現代の日本においても驚くほどその評価は高い。

東アジアは今日、解決の難しい多くの問題を抱えている。それは、史実の列挙や、東西のイデオロギーの対立というような単純な図式では簡単に整理できない複雑なものである。隣人をことさらに意識し、垣根の様相に神経を尖らせるのではなく、少なくとも文化を思うイマジネーションにおいては、互いにその垣根を取り払う想像力が必要かもしれない。

世界は今、グローバルに向かって揺れ動いている。国境を越えて地球上を移動する人々の動きはますます活発になっていく。コロナ禍があっても、動きは止まることはない。どこにいても仕事やコミュニケーションが円滑に進むことが実証された世界においては、会議のための出張こそ減るものの人々のCは

むしろ高まると予測されている。しかしながら、そういう状況であればこそ、ローカルの価値に注目が集まるのだ。グローバリズムを先導するのは経済であるが、そうであればこそ、価値を生み出す根源は文化、すなわちローカリティにあることが鮮明になる。なぜなら、グローバルな文化というものはないからである。文化とは、そこにしかない D そのものだからである。

欧州の植民地支配が、インドネシアやスリランカに、自分たちの足元にあるものを、いかなる「価値」として世界の文脈に提供できるかという「目覚め」をもたらしたのと同様に、東アジアは、グローバルな文脈の中で固有の価値を連携・呼応して生み出して行く必要があるのではないか。それには東アジアの文化に対する相互の理解と教養が不可欠である。教養とは、自分の国に利益を誘導する知略ではなく、「開かれた知性」なのである。

East Meets West という場合の、East に相当するのは、自国ではなく東洋のすべてでなくてはならない。国や体制を超えて、アジア文化圏としてこれを見た場合、今日においても滔々^{とうとう}と流れ続けているはずの東洋全体の文化の脈動がそこに見立てられていなくてはならない。

三十年にわたる経済・産業の停滞を経て、成長期から成熟期へと向かう日本列島を思う時、前記のような視点で世界に目を凝らしていく気運が、徐々に立ち上がり始めているように感じている。富国に浮かれた急進経済国としてではなく、千数百年の歴史を遡って視点を据えなおし、さらに五十年くらい先を見通すなら、そこにどんな日本、東アジア、そして世界が見えてくるだろうか。決して世界の中心ではない、ユーラシアの東の端の列島というつつましい場所で、静かに、世界の均衡を生み出していく知恵とふるまい⁽³⁾が、日本に求められているのではないだろうか。AI が世界を変え始めている今日、未来を見通すことは容易ではないが、そういうヴィジョンと可能性への感応が、若者を中心に少なからず生まれ始めているように思うのである。

注：*オーセンティック・・・本物， 正統， 真性であるさま

(原研哉『低空飛行－この国のかたちへ』岩波書店，2022年。ただし，出題のた

問5 空欄（C）・（D）にあてはまる最も適切な語を、以下から一つずつ選べ。

ただし、それぞれの空欄には異なるものが入る。C , D

- ① 国際性 ② 希少性 ③ 協調性 ④ 汎用性 ⑤ 独立性
⑥ 流動性 ⑦ 固有性 ⑧ 利便性 ⑨ 独創性

問6 空欄（ア）にあてはまる最も適切な文章を、以下から一つ選べ。

- ① 一切を受け入れる努力をってしまった
② 丹念に調べ上げてさらなる新技術を開発しようとした
③ その全てを捨て去ってしまった
④ 未知の新しい文化を否定してしまった
⑤ 近代的な新しい美意識をつくり出していった

問7 空欄（イ）にあてはまる最も適切な文章を、以下から一つ選べ。

- ① アジアの豊かな文化と西洋的なモダニズムを融合できたなら
② 欧米とアジアの国々を同列にあつかう姿勢があったなら
③ 日本の伝統的な美意識の文化的価値を再認識できていたなら
④ アジアをひとつの母体と考えるような理性が持てるなら
⑤ グローバリズムとローカリティの均衡が図れたなら

問 8 下線部(3)の本文中の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

9

- ① 世界各国が持続可能な開発を行っていくために、経済および文化面での連携を一層強化していくこと。
- ② 世界各国が持続可能な開発を行っていくために、具体的な目標を設定して着実に実行していくこと。
- ③ 世界各国が共に発展し繁栄していけるように、イデオロギーの対立を克服して互いの想像力を高めていくこと。
- ④ 世界各国の貧富の差を解消するために、人々の流動性を高めグローバルな視点を持った若者を育成すること。
- ⑤ 世界各国が共に発展し繁栄していけるように、それぞれの地域に固有の文化的価値を再認識して連携を強化していくこと。
- ⑥ 地球が抱える諸問題について、世界各国が自国の利害にとらわれずに議論を重ね、明確なビジョンを共有すること。

問9 本文の内容としてより適切なものを、以下から二つ選べ。

10

11

(順不同)

- ① 東アジアの国々が互いの文化を理解し連携することで、グローバル経済をより一層発展させることができる。
- ② 東アジアは多くの問題を抱えているが、隣人を必要以上に意識することなく、互いの垣根を取り払う想像力を持つことが大切である。
- ③ 自由を尊重する民主主義社会をより強固なものにするため、人々の教養や思考力、判断力を向上させていくことが必要である。
- ④ 次第に忘れ去られてしまった日本文化について、今一度グローバルな文脈の中で再考すべきである。
- ⑤ 日本はこれまで、自国の美意識や文化状況を絶えずアップデートしてきた。
- ⑥ 日本人が抱く欧米への強い憧れは、東洋と西洋が融合した独自の文化を生み出し、戦後の日本にめざましい経済成長をもたらした。
- ⑦ 教養は、自国の利益を確保するための知的な戦略である。

第2問 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

人類は農耕を開始することにより余剰作物（すなわち余剰エネルギー）を広く分配することが可能となり、結果として社会的分化が進み階層構造が形成された。その後、時代を重ねるに従って貧富の格差が生まれ、富と権力の集中が起こり、^(I)軍事的体制は次第に組織化・巨大化し、結果として、一定の地理的なエリアを統治する帝国が生じた。

考古学者で歴史学者のジョセフ・テインターは24の古代帝国の栄枯盛衰を調べ、共通のパターンがあることを指摘している。家畜を伴った農耕、^(II)鉱山開発と精錬技術による金属の利用は余剰エネルギーの生産を促進させ、結果として経済活性を促進し、ひとつの都市の人口と経済規模を拡大させる。そのような経済発展を基盤にして、市場や社会インフラを整備することや豊富な食料を確保することにより繁栄を築くと、そのような繁栄は周辺の都市の人々をも魅了し、その繁栄した都市に取り込まれていく。取り込まれた人々は、農耕作業に従事したり、金属生産・加工を行うなどして、余剰エネルギーの生産に貢献することにより、その都市は成長を繰り返すことになる。しかし、その一方でその都市が地理的に拡大を続けていくと、その中央への穀物提供（税金の役割）のための運搬エネルギーが段々と嵩むことになり、本来の歳入が運搬エネルギーに消えてしまうことにつながり、^(III)それまでの成長に抑制力が働く。結果として何かのタイミングでひとつの重要な歯車が狂うと、全体のバランスが失われてしまう。

歴史学者のジョン・パーリンは著書『森と文明』の中で、多くの古代文明の崩壊はエネルギー供給源である森林資源の喪失であることを指摘している。火を利用した金属の精錬技術の発見は、効率的に森林資源を伐採するのに絶大な効果を発揮した。つまり、エネルギー獲得速度が石器に比べて格段に向上したのである。大量の森林資源を燃焼させることにより銅などの鉱石を大量に精錬することが可能となり、得られた金属の交易を通して富を獲得することができた。

ア、森林を伐採した後の土地では農業が可能となるため、農作物の生産・交易によっても生活の豊かさを向上することができた。このような森林資源に根ざした A、肥沃だった森林土壌が農耕で使用され続けると、だん

だんと肥沃さが失われ、結果として作物の収量が減少する。それまで成長を続けてきた文明は、鉱石の品質低下と作物の収量低下により衰退を始める。以下では、古代帝国の衰退をエネルギーの視点から分析した例を紹介する。

紀元前8世紀頃の古代ギリシャでは、多くの国家的な機能をもった小規模な都市国家（ポリス）が成立していた。紀元前5世紀前半にアケメネス朝ペルシアとアテネ（現代の民主政の源流を確立したと言われる）を中心とするポリス諸都市との間でペルシア戦争が起こり、最終的にはギリシャ側が勝利した。ジョン・パーリンは、このようなギリシャ側の勝利の要因として、アテネ周辺の丘に存在した豊富な森林資源を指摘している。ペルシア戦争における歴史的な海戦であるサラミスの海戦においては、多数の軍船の建造が必要だったが、豊富な森林資源がそれらの建造を支持した。その一方で、パルテノン宮殿の建設などの都市における資材・エネルギー需要の拡大や、ラウリオン鉱山から産出される鉱石の製錬（精錬された銀は武器にも使用される）におけるエネルギー需要の拡大が続くと、森林資源が重要な戦略物質である認識もされていった。その後、アテネとスパルタがギリシャを二分して覇権を争ったペロポネソスの戦い（紀元前431年から404年）の頃には、森林資源や農耕土壌の衰退が顕在化しており、森林資源の確保が勝敗を左右する要因になった。スパルタ側は昔の敵だったペルシアと同盟を組むことによりペルシア側の森林資源の利用が可能となり、結果としてスパルタが勝利したが、社会を支える森林資源というエネルギー基盤の喪失からギリシャ全体の衰退を招くことになった。

古代ローマ帝国は、イタリア半島中部に位置した多部族からなる都市国家を起源として、国力が衰弱したギリシャの都市国家を次々に征服し、領土を拡大していった。古代ギリシャがポリスの連合体で形成されているのに対して、古代ローマは中央政権が支配する領土国家であった。2世紀頃になると、ローマ帝国の規模は最大となり、地中海世界の全域を支配するまでになった。この時、帝国は100万人を超える住民を抱えており、征服・公共事業などの様々な活動は主として人力エネルギーに依存していた。従って、そのような人力エネルギーを支えるための食料供給の土地の確保が重要であった。ローマ帝国のエジプトへの侵攻と服従は、カエサルのクレオパトラへの情欲ではなく、ローマ人によって劣化させ

られたイタリアの農耕土壌を背景とした、食料供給のための土地確保であったことを、チャールズ・ホールは指摘している。「エジプトはナイルの賜物^{たままの}」の言葉の通り、ナイル川の定期的な氾濫によって形成された肥沃な土壌の恵みで、エジプトの壮大な文明が築かれた。このようにして、商業・貿易は栄え、公共事業等の土木・建築技術も進展し、2世紀頃には人々にとって最高の時代を迎えていた。

, 自然資源（穀物, 森林資源, 太陽エネルギー）の変動に影響を受ける経済の浮き沈みという問題があった。つまり、ローマ人は自然から与えられるエネルギー供給能力を ことを意味する。結果として、生きるために必要なエネルギーを供給していた周辺自然資源の劣化が始まり、より遠くの自然資源に依存するようになった。そうすると今度は輸送エネルギーが発生するため、正味の生産性は落ちることになる。このような状況に対応するために、政府は金や銀などの当時の貨幣の改鋳を行った。しかし、この貨幣改鋳により過度なインフレが起こり、交易における購買力は低下した。

^(IV)
ジョセフ・テインターはローマ帝国の崩壊をエネルギーのバランスの崩れで説明している。ローマ人の自然資源の獲得の方法は侵略・征服であった。ある領土に形成された自然資源は、太陽エネルギーを蓄積したものである。そして、鉱物資源は人間のエネルギーで採掘し、森林資源を使用して精錬しなくてはならない。このような仕事は骨が折れるため、ローマ人はその種の作業には手を出さず、それらを有する地域を征服してそれらを獲得する手段を選んだ。被征服国からエネルギーや富の流れができることによってローマ帝国が拡大していくと、輸送のためのエネルギーが増すとともに、帝国全体を統治する仕組みが複雑性を増してくる（例えば食料を適切に生産し適切に分配する仕組みは規模が大きくなるほど難しくなる）。そのため、統治のためのエネルギーも増してくる。このような領域の拡大と複雑性の増加に対応するための余分なエネルギー消費が増えることになる。最終的に臨界点を超えると、全体としての劣化が始まる。

(松島 潤 (編著)『エネルギー資源の世界史』一色出版, 2019年。なお、出題のために一部変更した。)

問1 下線部(I)の意味として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 12

- ① 社会のまとまりが無くなり混沌こんとんとすること。
- ② 自分の好きな職業を選ぶことができること。
- ③ 社会が細分化されて不安定化すること。
- ④ 多様な価値観が受け入れられること。
- ⑤ 個人や集団が相互に異なった機能を担うこと。

問2 下線部(II)の解釈として最も適切なものを、以下から一つ選べ。 13

- ① どんなに状況が良くても先のことはわからない。
- ② 現状に満足して油断していると将来は暗転する。
- ③ どんなに状況が悪くても頑張っていれば報われる。
- ④ 勢いが増すこともあれば弱まることもある。
- ⑤ 調子が良い時こそ気を引き締めて行動すべき。

問3 下線部(III)の仕組みとして最も適切なものを、以下から一つ選べ。 14

- ① 戦争に勝利することで領地が拡大し発展していく。
- ② 余剰エネルギーの増大が好循環をもたらすことで発展していく。
- ③ 余剰の農産物を外部に販売することで発展していく。
- ④ 余剰の鉱山資源を外部に販売することで発展していく。
- ⑤ 良い政治を行うことで多くの人が集まり発展していく。

問4 空欄 (ア) に入る最も適切なものを、以下から一つ選べ。 15

- ① なぜなら ② したがって ③ さらには
- ④ しかし ⑤ つまり

問9 ローマ帝国が崩壊した理由として最も適切なものを、以下から一つ選べ。

20

- ① 領土内にある森林資源を使い果たし、帝国の統治に必要なエネルギーが失われてしまったため。
- ② 周辺各国との戦争が続き、帝国の統治に必要なエネルギーが失われてしまったため。
- ③ 帝国の統治のために必要だったエネルギーの大半が、内部の権力争いに消費されてしまったため。
- ④ エジプトへの侵攻作戦に失敗した結果、エネルギーのバランスが崩れてしまったため。
- ⑤ 得られるエネルギーに対して、統治に必要なエネルギーが大きくなってしまったため。

問10 本文の内容としてより適切なものを、以下から二つ選べ。

21

22

(順不同)

- ① 森林資源の安定的な生産に成功した国家だけが繁栄し続ける。
- ② 強い国家は資源を他国から入手できるため繁栄し続ける。
- ③ 国家は人口が増え領土が拡大することによって、成長が止まることもある。
- ④ 古代文明は金属の精錬技術を発見しなければ、もっと長く繁栄できた。
- ⑤ 農業を続けることは国家を衰退させる可能性がある。
- ⑥ 戦争において森林資源の育成は兵の装備や訓練よりも重要だった。
- ⑦ 鉱物資源の精錬にも森林資源は重要な役割を果たしていた。
- ⑧ 余剰エネルギーが大きくても戦争に勝利するとは限らない。
- ⑨ 余剰エネルギーの減少は必ずしも国家の衰退を意味しない。

第3問 各問いの二重下線部のカタカナと同じ漢字を使うものを、以下から一つ選べ。

問1 歴史ある教会で神のケイジを受ける。 23

- ① 皇太子が関西地方をギョウケイされた。
- ② 姉の結婚式に出席するため、ケイチョウ休暇を申請した。
- ③ あの人は西洋美術にゾウケイが深い。
- ④ 山あいのケイリュウでソロキャンプを楽しんだ。
- ⑤ 失敗をケイキとして業務の改善を行なった。

問2 豪雨で河川が氾濫し、床上までシンスイした。 24

- ① 哲学の授業で、シンエンな「知」の世界に触れる。
- ② アトラクションの長蛇の列にシンボウ強く並んだ。
- ③ 前年度の所得を税務署にシンコクする。
- ④ 武力によって他国の領土をシンリヤクする。
- ⑤ 政府の方針が国民にシンジュンする。

問3 ヨクヨウのある話し方で人の心を引きつける。 25

- ① 火山から流出したヨウガンがふもとの村に到達した。
- ② お気に入りの音楽を聴くと気分がコウヨウする
- ③ ニホンブヨウの家元から手ほどきを受ける。
- ④ 相変わらず、刺激のないボンヨウな毎日を過ごしている。
- ⑤ 錦鯉は光りかがやく美しいモヨウが特徴だ。

問4 対話による和平をテイショウする。 26

- ① 他人のプライベートな事柄にカンショウするのは良くない。
- ② 長年書き続けてきた日記のショウロクを出版する。
- ③ 医学部を卒業してリンショウイになる。
- ④ 裁判で被告人の無罪をリッショウする。
- ⑤ 皆で念仏をショウワする。

問5 株価のスイイを分析する。 27

- ① 何気ない恋人の行動をジャスイする。
- ② 彼女はキッスイの江戸っ子だ。
- ③ 大財閥のソウスイとしてグループ企業を束ねる。
- ④ 経理部でスイトウの管理を任される。
- ⑤ 鉄棒でケンスイをして筋力を鍛えている。

問6 政治家によるガイトウ演説が始まった。 28

- ① コウカイ先に立たず。
- ② 条件にガイトウする新居を探す。
- ③ 事件のガイヨウについて説明を受けた。
- ④ 腕時計よりもカイチュウ時計が好きだ。
- ⑤ 江戸時代に整備されたカイドウを歩く。

問7 記者がジケンの真相を追求する。 29

- ① 戦争コジへ文房具を送る。
- ② 中国のコジから得られる教訓。
- ③ 議長への就任を求められたがコジした。
- ④ 財力をコジするような豪邸。
- ⑤ 説得に応じず自らの意見をコジする。

問8 将来は映画カントクになりたい。 30

- ① カンカできない発言に反論した。
- ② 森林の生態系を注意深くカンサツする。
- ③ 有名企業のカンサ役に就任した。
- ④ 将来はケイサツカンになりたい。
- ⑤ 消費者に利益の一部をカンゲンする。

問9 体育祭でト競走に出場する。 31

- ① 壁のトソウをやり直す。
- ② 忘れ物をしてトチュウで引き返した。
- ③ 学問のトとして生きていく。
- ④ ホクト七星が綺麗に見える。

問10 報告に先立ってロンシを述べる。 32

- ① 長年勤めた会社だがユシ退職を告げられた。
- ② ヨウシだけで人を判断してはいけない。
- ③ 名家のシシとして育てられた。
- ④ ついにシユウを決する時がきた。
- ⑤ 有識者によるシモン委員会が設置された。